No.3
30 Apr. 2004

日本・パプアニューギニア協会会報
ごくらくちょう
Bird of Paradise

発　行　日本・パプアニューギニア協会
発行日　平成16年4月30日
編　集　日本・パプアニューギニア協会広報部　〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階（ニューギニア航空日本支社内TEL03-5216-3555 FAX03-5216-3556

Port Moresby

今のポートモレスビー情報

PNG JAPAN　上岡　秀雄

私、かつて青年海外協力隊で平成6年からポートモレスビーの観光省で勤め、縁あってこちらで結婚し、現在、旅行関係の仕事で日本からの旅行者の方のお世話をさせていただいております上岡秀雄と申します。これからニューギニア在住の日本人の方々と協力して、「ごくらくちょう」の現地情報をUPしていく事で、ニューギニアの「今」をお伝えしていければと思っております。

初回は、首都で海外からの玄関口のポートモレスビーの街のレポートをしたいと思います。

ポートモレスビーはその名の通り、ポート:港町です。1873年に英国海軍のモレスビー提督が発見した事からこの名前が付きました。

その後、次第に内陸部に拡張し、現在、人口約30万人で、南太平洋で最大の都市（オーストラリアを除く）になっています。

現在のポートモレスビーは政府関係の建物や銀行の本店、保険会社、商社などが並ぶ都会である半面、少し町を外れると、そこは秘境の匂いが･･･

国際空港から車で20分&ボートで5分の所にはロロアタアイランドリゾートがあり、サンゴ礁やそれに住み着く魚などの水中世界を楽しむ為に、世界中からダイバーが訪れています。世界で一番読者数の多いアメリカのダイビング雑誌の読者投票で毎年、世界NO1の評価を争うニューギニアの玄関口、ポートモレスビーの海は決してあなどれません。

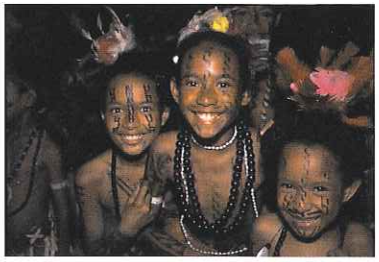
「世界で一番海の美しい首都」と言う形容詞も大げさではありません。

また車で1時間30分の郊外のバリラタ国立公園では、この会報の名前にもなっている「ごくらくちょう」の求愛ダンスを見たり、海岸沿いの先住民族のモツ族の水上部落で伝統的な生活や伝統料理を楽しんだり、ということも可能です。

現在、ポートモレスビーは雨季で、夕方にはスコールのような雨が降る事がありますが、日中は晴れている事が多いです。気温は最高33度、最低28度ですが、日本の熱帯夜のような寝苦しさはなく、夕方には涼しい風が吹き、雨季とはいえ、さわやかです。又日本の夏はこちらでは乾季に当たり、1ヶ月以上雨の降らない事が普通です。

ブーゲンビリア、ハイビスカス等の熱帯の花が咲き乱れるポートモレスビーへはニューギニア航空の直行便で6時間半です。

「本当の秘境に行く勇気や体力は無いけど、少しかじってみたい」と言う方は、ぜひ、ここポートモレスビーで秘境の入り口を体験してください。（2004年1月寄稿）



ポートモレスビー市内のパガヒルからの眺望とロロアタアイランドショーの子供たち

PNG JAPAN LTD　P.O.Box 2753, Boroko NCD
Tel:(675)323-1321 Fax:(675)323-2103
HP:www.png-japan.co.jp　Email:info@png-japan.co.jp

Tufi

トゥフィ便り

トゥフィダイブリゾート　田村　志保

季節風がおさまり、雨季に入り、マンゴーはたわわに実り、日差しもジリジリと肌に焦げ付くようになりました。

トゥフィは首都ポートモレスビーからほぼ真東に、国内線で50分、ソロモン海に面しています。陸路がなく他所からの侵入ができない陸の孤島ですが、だからこそ素朴で治安もいい状態で保たれています。ここを訪れる人はそのあまりののどかさに時間も曜日も忘れてしまうようです。現地のパプアニューギニア人以外に定住している人はいませんが、リゾートには日本人はもちろん、オーストラリア、アメリカ、ヨーロッパ、チェコやベラルーシなど世界各国からたくさんのゲストが訪れています。

リゾートは溶岩の流出によってできたフィヨルド状の岬端にあり、眼下に海を見下ろし、彼方にそびえ立つ火山を一望できます。その名のとおりダイビングがメインのアトラクションですが、カヤッキングやハイキングなど地域の観光開発にも協力しています。昨年8月にはこの地域ではじめての文化祭を催し大成功に終わりました。来年も9月17～19日に2回目を開催することが決定しており、リゾートの働きかけによる観光だけでなく、地元の人々の手による観光資源を開発しようとしています。（2003年12月寄稿）

Tufi Dive Resort
P.O.Box 1845
Port Moresby
Tel:(675)329-6000
Fax:(675)329-6001
Web:www.tufidive.com
Email:info@tufidive.com

ケビエン紀行 ツリーハウス

大牟田 太朗（日・パ協会個人会員・著述業）

昨年の11月も末近く、仕事仲間の賀部さん(日・パ協会個人会員)の案内でパプアニューギニアの旅を体験した。

私には初めての海外旅行なので、これも何かの縁だと思ったが、できるだけの贅沢さを望んだ。といっても二人とも金があり余っているわけではなく、淋しい懐ながらゆったりとした慾張らない旅をという意味である。日本の1.2倍の領域をもつ国、そこを1週間ではとても回り切れるものではないからだ。賀部さんは、この国に関わりをもってもうかれこれ30年になるので、当方の要望する「贅沢」の意味を心得て日程を組んでくれた。

冬の国の夜から6時間半で夏の国の早朝に降り立った。ポートモレスビーの空港を出て、朝食をとるために近くのホテルを目ざして荷物を引きずりながら歩いていると、警官に呼び止められた。パトロールカーで送ってやろうという。見た目には決して愛想のいい顔ではない。日本でならば警察の世話になるなどは遠慮したいところだが、冬拵えのまま急激に暑熱の中に放り出されたような按配だから、ここでは特別待遇だと考えることにした。ホテルまで歩けば15分ほどかかる。警官が日本人を乗せてきたので、ホテルのボーイも泊まり客たちも何事かと驚いたに違いない。

賀部さんが二人の警官にハイライトを2個差し出すと、初めて人なつこい笑顔になった。賀部さんはたばこを喫わない。が、みごとな呼吸だと思った。この地では、たばこは貴重品なのだ。わが国では野放図に喫煙しにくくなっているが、ここでは初対面で心の距離を縮める媒介物として役に立っていることにあとで気がついた。気前よくふるまっていると、1カートン携えていたのに3日ともたず、自分の喫う分がなくなるという経験をした。自販機などどこにもない。

その日のうちにケビエンに向かった。空の国内線で約2時間。ケビエンの空港は、全体がものものしい柵で囲われているわけではなく、外からはどこまでが空港の範囲なのか定かではない。建物は素朴な田舎の「駅」という印象である。アラン・ベック氏が、二人を待っていてくれた。ニュージーランドの生まれだ。現在、ツリーハウスの主人で、40代はじめの物静かで穏やかな人柄である。

ツリーハウスは、町から20キロほど離れている。アラン氏のクルマはドイツ製だが、町を走っているのはいずれも日本の中古車である。ほとんどの小型トラックには大きな字で、TOYOTA、MAZDAなどと書かれているのが目につく。町からは一本の道がまっすぐに南の方へ延びている。パプアニューギニアでは、このニューアイルランド島の道路が一番整備されているという。二車線ほどの幅のアスファルトには凸凹がない。片側は小高い丘に連なる緑の森に覆われ、もう一方は椰子の林や常緑の木々が道を縁どり、その隙間から海が見える。

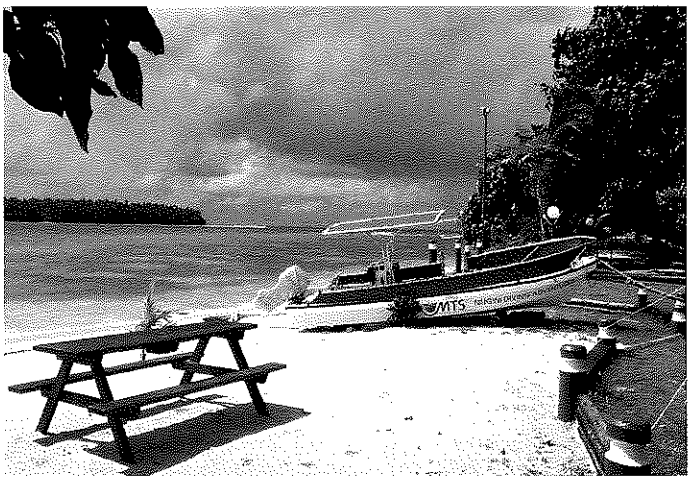
道路端を子供たちが三々五々裸足で歩いている。学校帰りの生徒で、何キロもの道のりを徒歩で通うらしい。「スクール・バスがあれば、あの子たちも助かるのだが」とアラン氏は言う。賀部さんがクルマから身を乗り出して手を振ると、彼らは一斉にそれに応える。それを真似てみると、たしかな手応えが返ってくる。こうして弥次喜多道中が始まった。

ツリーハウスは、文字通り巨木の上に茅葺風の二層コテージを乗せたものである。階段を昇ると一層目は食堂兼居間の構えである。二層目が宿泊用の部屋だ。もう一つ上に屋根裏部屋がある。下を見れば大木の根元から5メートルぐらいのところに、ゆるやかに波が打ち寄せている。ツリーハウスのほか、300坪ほどの敷地の奥の渚ぎわに瀟洒なロッジが六つ並んでいるが、私たちはツリーハウスに泊まることになった。宿泊室は10畳ほどの広さ。洗面台とシャワーと水洗トイレが付いている。水は雨水を貯めたもの、電気は自家発電である。一、二層とも回りにテラスが張り巡らされ、一層目のそこには籐椅子などが何脚か置かれ、一種の社交場となっている。

食堂の世話をしてくれるのは、ハミス・ジェリー君。現地の人と中国人との混血だが、おとなしくて実に気のいい青年である。了解事項も感謝の表現も合掌の型で表す。日本人をみればそうするものだと思っているのかもしれない。わが国では相撲の手刀方式は流行っても、もはや合掌する人はお坊さん以外に日常ではほとんどいないといってよい。

調理をしてくれるのが、ゲスリング・バナールさんである。生粋のパプアニューギニア人で家庭持ちだ。繊細な味付けに心を配っている。この人も余計なおしゃべりはしないけれど、椰子の実をそっと採ってきてくれたり、ワタリ蟹を自ら潜ってつかまえ夕食に供してくれたりする。食事は、果物もたくさんあって申し分がない。私は普段わが家で食す何倍もの野菜や果物に堪能した。自然の恵みと人の心尽くしをいただくというのは、ありがたく、なんという贅沢なことであろうか。

最初の夜、私たちが宿泊しているのを知ってか、小錦ほどではないが、大柄で太ったお相撲さんのような人が食堂



マラガンビーチ

ツリーハウス前にて 右より 賀部さん アランさん

に訪れた。この地の世話人か実力者だろう、実によく食い、よくしゃべる。パプアニューギニアの国際空港はケビエンに置くべきだと主張する。なるほど、そうすれば日本との間が少なくとも1時間以上短縮できる。国内線もここを基点としたほうが合理的だという(オーストラリア方面から見れば、そういうわけにもいかないだろうが)。

アランさんはニコニコしながら、相槌を打っている。実力者氏は、賀部さんにさかんに同意をもとめる。私のほうは干からびたわずかな単語を貧しい頭の引き出しに閉まっているだけで、にわかにひっぱり出そうとしても、把手がとれていて用をなさない。漫才の宮川大助風になってしまうのだ。演説はもっぱら賀部さんに向けられて果てしがない。「ケビエンを利用すれば、鮪やほかの資源を日本に供給するのに好都合ではないか。そのことを日本政府によく伝えてくれないか。そして、空港建設や船舶設備に力を貸すように説得してほしい」というのである。

どう見ても私たちは政府要員の顔つきではないのにと思いながらも、彼が手振り混じりに話し続け、山盛りに取り置いた自分の皿のスパゲティーへやたらに塩を振りかけるのを見て、大丈夫かと私はそればかり心配した。

翌朝、雷鳴と共に激しい雨音がし、村の子供たちの声に目が醒めた。天地は薄暗く、テラスの軒端から雨水が滝のようにしたたり落ちている。雨期が近づいていると聴いてはいたが、スコールの凄まじさを初めて知った。一日中雨に閉じ込められるのではないかという気がしたけれど、30分もすれば厚い雲が切れ、嘘のように陽が射してきた。爽やかで涼しい。周りの森も一段と鮮やかに緑が滴っている。海は広大にして碧く輝いている。

渚のほうからギターのような音色が聞こえてきた。降りて行くと、10歳くらいの少年が手作りのギターを弾いていた。鹿児島の板作りのゴッタンのようなものだ。素晴らしいじゃないかと声をかけると少年は、はにかんで弾くのを控えた。ランディと名乗った。父親が死んでもういないという。あそこに眠っていると、民家の庭の一隅を指さした。渚の散歩に彼はついてきた。マングローブがところどころに繁っている。村にはごく小さな1人用のツリーハウスがいくつか目につく。その一つがぼくのものだとランディ君が案内する。昇ってみろと奨めるが、大人が乗ると壊れそうで遠慮した。

山刀を持った男が近づいてきたので、たばこを勧めるとお返しにビートル・ナッツを差し出して、さかんに試してみろと催促する。太った隠元豆に似たものに石灰を付けて噛むのである。そのために口腔がいっそ紅く染まる。見よう見真似で噛んでみると、口全体に冷気が走る。常用すればたばこのようにやめられなくなると聴いており、歯を紅く染めて帰るわけにもいかないので、ペッと吐き出した。ランディ少年がけらけらと笑う。山刀の男も苦笑いでいたわるような顔つきになった。見本を示すごとく莢豆をしがんでやまない。

ランディ君が私のTシャツの胸をさして、「ぼくもそんなのが欲しいなあ」という。自分では気がつかなかったが、胸に小さなギターのプリントが5個並んでいたのである。Tシャツが欲しいのではなく、プリントが彼の興味を引いていたことに気づき、ツリーハウスに戻って手揉みで洗濯を始めた。ランディ少年にプレゼントしようと考えたのである。水をたくさん使ったせいか、起き出してきた賀部さんにシャワーの湯も水も出ないと叱られた。あのスコールにも気づかず眠っていたというのも相当なものだ。昨夜の演説を聴いてよほど疲れたのだろう。

ランディ少年は、どうやら学校に通っていないらしい。この国では、貧しい家庭の子女は学校に行けないのだという。日本のように〈勝ち組〉〈負け組〉というような卑しいことではなく、機会均等に誰もが教育を受けられるように願わずにはいられない。彼らの瞳は大きくて濁りなく美しい。

黄昏時には村の老若男女がアランさんの庭に集まって、四方山の話に興じている。犬も鶏も寄ってくる。なぜか猫はいない。犬は鎖に繋がれもせず、鶏は放し飼い同様だ。アランさんは2匹の犬を飼っているが、1匹は利口、もう1匹は馬鹿だという。どういうわけか、その馬鹿の方が私に親愛の情を示してくる。いずれにしても、もうわが国では見られないなごやかなひと時がそこにある。朱い残影を引く夕べはこうでなくてはならない。今日も無事に終った至福の時である。

螢を見たいという私たちのために、アランさんは漆黒の闇にクルマを出してくれた。ゲスリングさんも同行する。路傍の暗闇から何人もの人影がライトに浮かび出るのには驚いた。彼らはものすごく夜目が利くという。舗装されていない凸凹の脇道から丘に上っていくと、ライトの光だけが真っ直ぐに突き出されているだけで、クルマを停めれば、空には星が瞬いているものの足元さえまったく見えない闇の中である。ファイヤーフライは、影絵のような木に群がってまるで電飾のクリスマス・ツリーそのものだ。日本の螢のように頼りなげな淡い光ではなく、硬質な光を放っている。わが国では滅多なことでは螢を見ることができなくなったが、かつてはとらえた螢を袋状にした薄紙にそっと入れて、夏の夜の朧な光と闇の風情を慈しむ風習があった、とアランさんとゲスリングさんに告げた。

もう一夜明けて、スコールが上がったあと、私たちはケビエンのマラガンビーチ・リゾートホテル裏の渚に出向いた。爽やかな風のなか、コーヒーで寛いだあと、透き通った潮の上を小舟で真向かいの小島に渡る。自然のままの浜辺は、コンクリートもテトラポットもない。それが本然の姿で、浜辺はそのように保たれなければならない。木陰には、赤ん坊を抱いた女たちが貝殻細工や小物を台に展げている。声をかけると一斉に笑みがこぼれる。

ケビエンの先端から北方の海を眺めて感じた。柳田國男の『海上の道』にはジュズダマや宝貝について述べられた箇所があるが、黒潮の八重の潮路のスターティング・ポイントは、ひょっとしてこの辺りではないのか、と。この地の人も、ある意味ではそれなりに、〈ニライカナイ〉に憧れて、潮に乗ったかもしれない。パプアニューギニアの貨幣の単位がキナとトヤ、それはシェル・マネーから発しているということからして、『海上の道』の宝貝の記述が妙に気にかかる。ここから沖縄諸島、奄美諸島、そして寄せものの椰子の実を島崎藤村が詠った伊良湖岬を随意に結んでみる空想も、大いに許されてよいのではなかろうかと思った。

PNGコーヒー

ユー・アンド・ユー　石神 雅人(日・パ協会法人会員)

日本には世界の様々な生産国からコーヒーの生豆が入って来ております。現在日本は、世界第3位の生豆輸入国にまでなりました。しかしながら残念なことにPNGコーヒーの知名度は低く店頭でもあまり目にすることはありません。
PNGコーヒーの本格的な栽培も約50年とその歴史は浅く、他の生産国と比較しますと新しいと言えるかもしれません。ルーツは、ブルーマウンテンの故郷ジャマイカより種子が持ちこまれたのが始まりです。生産されるコーヒーの大半はドイツへ輸出されます。結果ヨーロッパにおいては、非常に高品質の豆として評価されております。
最近ようやく日本においても目にするようになって来ました。エスプレッソやカフェラテなどのブームで深焙りの味が好まれるようになったせいかもしれません。
我々が製品化している「パラダイスプレミアム」は、PNGコーヒーの中で最高級のグレードAAの格付をされております。(等級はAA～T10等級)これ程までに品質のレベルが高い豆が何故評価されないのか不思議なくらいです。(我々の営業努力が足りないせいもありますが・・・)長年、PNGコーヒーを直輸入されている(株)ビーエムコーポレーション福島社長の尽力に依って、「単一農園」の稀少なコーヒーを販売させていただけることは本当にありがたいことと感謝しております。また種子からじっくりと育ててくれている農園の方々のお力があればこそと考えております。

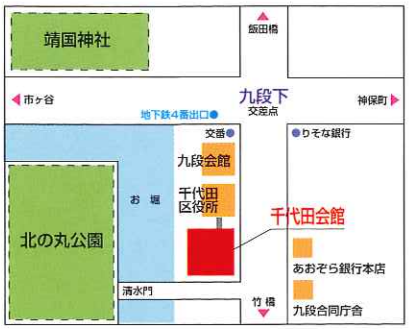
十数年前に撤廃されたクォーター制(輸入割り当て制度)の影響か、相場は安値が続き、生産意欲もそこなわれているのが各国の産地の状況かと考えます。ブラジルなどでは、オレンジやアボガド栽培に変わった農園もあるという話もお聞きしました。結末は品質の低下につながってゆくことでしょう。ただでさえ天候に左右される農作物(自然の賜物)がこのような状況になってしまうことは、寂しい限りであります。併せて生産者の方々の暮らしが30年前と殆ど変わっていないということは、労働意欲をおのずとなくしてしまうのも当然の事のように思われます。
最近、食品の偽物表示がようやく暴れ始めましたが、利益優先とブランド志向のもたらした弊害ですが、コーヒーも、まだまだ名前とパッケージデザインだけで売られているのが現状と思います。
コーヒーは嗜好品ですが、それ以前に食品(生鮮食品)であります。
生産にたずさわる方々の顔が見え流通の顔も見える。そして消費されるお客様に安心して飲んでいただけるシステムがなければ「おいしいコーヒー」は、育たなくなってしまう様な気がしてなりません。
PNG・パラダイスプレミアムAAの品質維持を求め、「PNGコーヒー」のブランド作りを目指して行きたいと考えております。

Yu & Yu 連絡先／(有)ユー・アンド・ユー
〒167-0042 東京都杉並区西荻北1-9-14
TEL & FAX 03-3397-1157

事務局からのお知らせ

当協会事務局(ニューギニア航空)が下記のように移転しました!

新住所
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17
千代田会館6階
電話 (03)5216-3555(従来通り)
ファックス (03)5216-3556(従来通り)
最寄り駅
東京メトロ「東西線、半蔵門線」・都営「新宿線」九段下駅下車 4番出口より徒歩3分



理事会が開催されました

2004年3月17日、パレスビルにて第一回理事会が15名の出席者をもって終始なごやかに執り行われました。
尚、5月18日には、総会が行われますので、皆様、奮ってご参加ください。

PNG土器展開催中

滋賀県陶芸の森でパプア・ニューギニア土器展を開催しています。
ご興味のある方には、無料ご招待券をお送りしますので、当事務局までご連絡ください。尚、数に限りがございますので、先着順とさせていただきます。
滋賀県立陶芸の森陶芸館
滋賀県甲賀群信楽町勅旨2188-7
TEL0748-83-0909
http://www.sccp.or.jp/
第1期　2004年3月20日～5月23日
第2期　2004年5月25日～7月30日

編集後記

今回はPNGの各地をご紹介することができました。
それぞれが「個性があって味わいのある所」というのがPNGの魅力ではないでしょうか。私もPNGをまたフラフラしたくなりました。PNGコーヒーでも飲みながら、PNGの地図を広げてみようっと。
(佐藤 直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数　2004年3月末　法人会員／11　個人会員／69

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法／郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費／個人会員 5,000円　法人会員 50,000円
会費受付／郵便振替口座をご利用ください。

口座記号／番号　00140-2-277582
加入者名／日本・パプアニューギニア協会
問合せ先／日本・パプアニューギニア協会　事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555
E-mail:info@air-niugini.co.jp